

## 京滋コンクリート診断士会 第3回通常総会 議事録

日時：平成23年10月26日（水）午後2時00分～2時45分

会場：京都テルサ中会議室 第4会議室（東館2階）

定足数確認：出席22名 委任状による出席18名 計40名（会員総数80名の50%）

以上から会則第15条により本総会の成立を確認

開会挨拶：長谷川 会長

- ・3年が経過し診断士会において今後の取り組みとして、診断業務が重要となり会員の力がますます必要となる。
- ・コンクリート構造物が築造され古い建物は、100年が過ぎようとしているが、製造方法は現在と全く違っている。コンクリート診断士制度が出来て約10年が経ち、今年の合格者数が887名、合計で9,907名である。築40～50年の構造物が非常に多く、コンクリート構造物の劣化も日々進んでいる為、コンクリート診断士の活躍の場が増えてくる。
- ・入札制度が変わり、総合評価方式によりコンクリートの品質管理の向上について、コンクリート診断士が、提案内容を指導することにも活躍の場が現れる。
- ・宮川先生がよくおっしゃる“丈夫で美しく長持ち”のコンクリート構造物を作ることが、長期持続可能なものとなりコスト的にも安い構造物とすることが出来る。
- ・コンクリート診断士の資格には、ひび割れに対して説明責任がある。
- ・コンクリート診断士の資格制度は、公共構造物を長持ちさせることを目的とした資格である。
- ・診断士会の運営には会費が必要であるが、未納の方が多いので速やかに会費を納めていただきたい。

来賓祝辞：京都府建設交通部 理事 中村 様

- ・東北地方に起きた地震により、コンクリート構造物にも壊滅的な被害が発生し我が国が地震国として、極めて厳しい自然環境にあることを、改めて認識することになった。
- ・現在京都府では、橋梁耐震化や道路の法面整備等、耐震防災対策を最優先で取り組んでいる。昭和30年、40年、50年代に建設した構造物の老朽化に対して、アセットマネジメントを導入し、適切な維持管理に努め延命化に取り組んでいる。

- ・土木・建築工事に欠くことのできないコンクリートの重要特性である強度、耐久性は、塩化物、アルカリシリカ反応、材料、施工、メンテナンスにより左右される。コンクリート構造物の健全性を判断する上で、ひび割れが有害であるか否か、進行性であるか否か、強度は大丈夫であるか適切に判断することが大切で、昭和の時代に作られた構造物の高齢化が進み、コンクリート診断士と技術と力が今後ますます期待が高まる。
- ・名神高速道が開通し、約 50 年を迎えようとしている。特に最初に開通した区間の劣化が激しく、集中工事で対策を講じているが、抜本的な解消とはなっていない。新名神高速道路が、着工を認められたとしても、開通するまで約 10 年かかるとした場合、今ある構造物をどのように維持していくかコンクリート診断士の技術が活かされていく。
- ・10/29 より 11/6 まで、“国民文化祭・京都 2011” が京都で開催される。  
“こころを整える～文化発心” がテーマである。

議長選出：会則第 10 条により長谷川会長を議長に選出

#### 審議事項

第 1 号議案	平成 22 年度事業報告	(山口)	→	承認
第 2 号議案	平成 22 年度会計報告	(山口)	→	承認
	平成 22 年度会計監査報告	(高木)	→	承認
第 3 号議案	平成 23 年度事業計画(案)	(高井)	→	承認
第 4 号議案	平成 23 年度収支予算(案)	(高井)	→	承認

閉会：審議事項すべて承認され閉会。

記録：辻 景介